

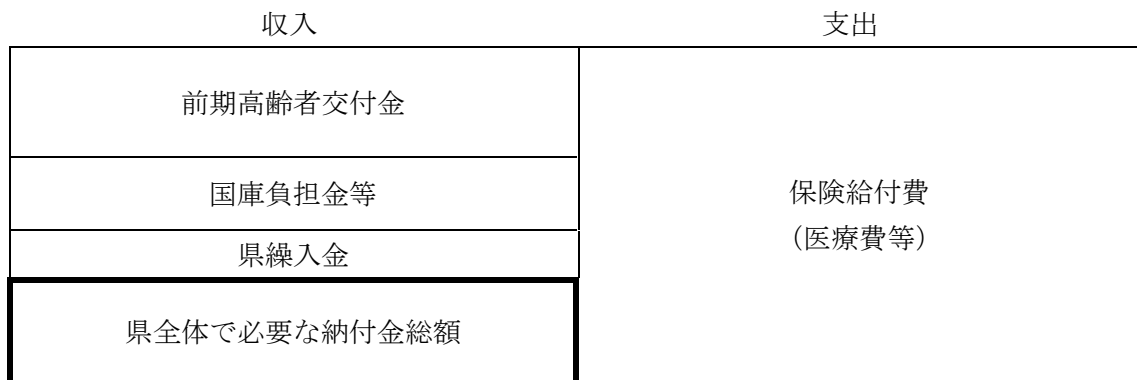
医療費指数反映係数 α について

○医療費指数反映係数 α とは

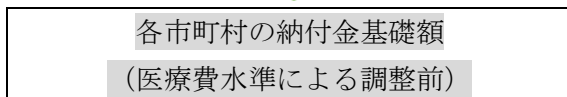
- ・医療費の地域差に対応するため、各市町村の納付金算定で、医療費指数^{*}を反映している。医療費指数が高い市町村は納付金負担が高く、逆に低い市町村は納付金負担が低い。
- ※ 医療費指数：年齢調整後の医療費の水準を、全国平均を1として指数化したもの
- ・医療費指数反映係数 α は、各市町村の医療費指数をどの程度納付金に反映させるかを示す係数で、各都道府県が0から1の間で設定する。
- ・本県では、平成30年度に α を0.5としたが、令和4年度から毎年度0.1ずつ低減し、令和8年度にゼロとすることを目標としている。

○事業費納付金算定イメージ

- ・医療分

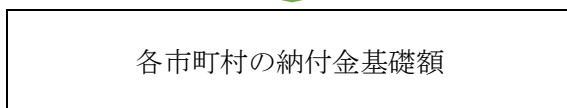


各市町村の所得シェア・被保険者数シェア・世帯数シェアで按分



各市町村の医療費水準を反映

$$\text{各市町村の納付金基礎額} = \text{各市町村の納付金基礎額 (医療費水準による調整前)} \times (1 + \alpha \times (\text{医療費指数} - 1))$$



〈参考〉納付金基礎額（医療費水準による調整前）1億円、医療費指数1.1の市町村の例

α	計算式	納付金基礎額	反映度
1.0	$1 \text{ 億円} \times (1 + 1.0(\alpha) \times (1.1 - 1)) = 1 \text{ 億円} \times 1.1$	1億1千万円	全部反映
0.5	$1 \text{ 億円} \times (1 + 0.5(\alpha) \times (1.1 - 1)) = 1 \text{ 億円} \times 1.05$	1億5百万円	半分反映
0.0	$1 \text{ 億円} \times (1 + 0.0(\alpha) \times (1.1 - 1)) = 1 \text{ 億円} \times 1.0$	1億円	反映なし